

着物と私(9)

「選ぶ楽しさ」

竹田 夏美



みなさんにとって着物は身近なものでしょうか？私は、着物を着る機会も場面も人並みで特に身近なものではありません。だからこそ着物を自分で選ぶ時は慎重に、真剣に選びます。それはやはり、普段着ないものを着る喜びからくるものだと思います。いくら着物を着る機会が多い人でも、現代では毎日着物を着るという人はなかなかいません。だから、着物を選ぶときは誰でも、特別なことをしていると感じ、きっと楽しいひとときになるでしょう。

今まで私は七五三、成人式、舞妓体験、巫女さんのアルバイトで着物を着ました。舞妓さんの格好は京都観光に来た友達と一緒に体験しました。当日その場で着物を選ぶのですが、これがなかなか決まりません。せっかくなので普段着ないような色にしたいけどやはり自分の好きな色も捨て難い、という葛藤に苦しみながら最終的にピンク色の着物を選びました。葛藤に苦しみながらと書きましたが、実際はその悩んでいる間もやはり楽しかったです。一生写真に残る成人式用の振袖は本当に慎重に選びました。レンタルの着物ですが、振袖は悩みに悩んで、自分の好みで似合う色・柄に決めたので満足しています。そして私が人生で次に着る着物は卒業式(学位記授与式)の袴です。今はまだカタログで見ている段階なのですが、実物を見ながら選ぶのがとても楽しみです。

最近は現代風の柄の着物もたくさんあり、人生



の節目に着る物という印象だけでなく、いつもと少し違うお洒落を楽しむための着物、という考えが少しずつ広まっていると思います。図書館本館ビジュアル資料室にそういった着物関係の可愛い本がたくさんあるので、興味がある方はぜひご覧になってください。

最後に、着物は華やかで女性が楽しむものというイメージがありますが、ぜひ男性も浴衣や袴など着る機会があればどんどん着て、各行事をより楽しんでほしいです。



たけだ なつみ (フランス語学科4年次生)